

## 【中区】令和 7 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

|       |   |
|-------|---|
| 開催日時  | 令和 7 年 9 月 8 日 午後 16 時 00 分 ~ 午後 17 時 10 分  |
| 場 所   | 中区役所 7 階 703 会議室・704 会議室  |
| 出席者   | 【座長】松本研議員<br>【議員：2名】福島直子議員、伊波俊之助議員<br>【中区：25名】永井由香区長、梶原豊副区長、<br>市川英毅福祉保健センター長、原田正俊福祉保健センター担当部長、<br>青木隆浩中土木事務所長、田邊栄久中消防署長 ほか関係職員   |
| 議題    | 議題 1 令和 6 年度中区個性ある区づくり推進費決算状況<br>議題 2 令和 6 年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業実績<br>議題 3 令和 7 年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業執行状況<br>議題 4 令和 8 年度中区個性ある区づくり推進費予算編成の考え方（案）<br>議題 5 その他   |
| 発言の要旨 | 議題 1 令和 6 年度中区個性ある区づくり推進費決算状況<br>議題 2 令和 6 年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業実績<br>議題 3 令和 7 年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業執行状況<br>議題 4 令和 8 年度中区個性ある区づくり推進費予算編成の考え方（案）<br><br>伊波議員：中区の特徴をしっかりと押さえいらっしゃると思います。横浜市の行政サービスの評価の対象というのは区役所になると思っていました。幹部の皆様が本日はお集まりですけども、職員の皆さん本当に頑張ってくれていますので、感謝を最初に述べさせていただきます。<br>その上で、市長が 2 期目の当選をされて、明後日に中期計画に関する発表もあると聞いておりますけれども、市長が 2 期目を迎えるにあたってどのように感じているのかを、中区を代表して区長にお聞きしたいと思います。<br>永井区長：山中市政の 4 年間は、非常に地域に密着した施策や、基本戦略である「子育てしたいまち」を市民の皆様から評価をいただいた結果、第 2 期目と受け止めております。その上で今回、9 月 1 日に市長から訓示を受け、市民の皆様の安心安全な生活を支える施策、横浜の持続的な |

成長・発展を第2期目として強く推進していくというお話がありましたので、中区としても、地域に対し最前線で接している我々が、それを更に推進していきたいと思っております。

伊波議員：中区は、お客様をお迎えする場所でもあり、住んでいる方もいらっしゃるし、独居の世帯も横浜市で一番多く、18区のモデルになっていくと思っています。職員の皆さんから色々な声が、管理職の皆様のところに入ってくると思いますので、しっかりと区長が吸い上げていただき、市長に届けていただきたいと思います。私達3人の議員も議会側からしっかりとフォローアップしていきたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

防災担当の地域での説明が非常に良いのです。北方消防出張所にいたときから感じていたのですが、「マニュアルではこういうふうになっているけど、実際にはこういうふうに工夫するといいんですよ」とか、すごく教え方が上手なんですね。防災訓練に参加していない方にも届くようなものができないかなと感じているのですが、防災担当の係長のように、もともと消防局の職員である方が中区で係長を担っていますが、これはもっと評価してもいいと思うのですが、どうお考えでしょうか。

永井区長：常日頃から中消防署と連携を取っていまして、田邊署長からも様々な場面で説明に登場していただいたりしています。「なかくっ子自由研究大作戦」という事業で、夏休み中の子どもたち向けに色々なテーマでイベントを行ったのですが、消防署長と一緒に消防のしくみを学ぶ企画を提案いただいて、署長自ら色々な説明を新しい消防署でいただきました。私も一緒に聞かせてもらったのですが、本当に多くの子さんに参加していただいて、目をキラキラさせながら聞いている様子も拝見しました。我々としても感謝しているところです。

田邊中消防署長：区長からもありましたとおり、区役所と連携して様々な防災の訓練を指導しているのですが、こうした訓練に参加される方は毎回同じような方になってしまっているので、若い方含め新たな方々の発掘という部分も含め、様々な工夫をしていきたいと思っています。ただ、こうしたことは引き続いてずっとやってきてているのですが、やはりなかなか芽が出ないところもありますので、消防団ともしっかりと連携しながら、地域がどういった訓練を望んでいるのか、しっかりと把握しながら実施していきたいと思います。

伊波議員：訓練に参加すると、私たちも大きな気づきがたくさん出てきま

すので、命を守る最前線の部分になってくると思います。ちなみに、この間の山下町の港中学での訓練を受けて、振り返りとか、職員同士でやっているのですよね。

永井区長：これからまだ順次、各拠点で防災訓練が始まってまいりますので、職員同士はもちろんですが、防災拠点の運営委員会もありますので、拠点ごとに課題や特徴があると思いますので、そうしたことを共有する場をつくっていきたいと思います。

伊波議員：港中学校では中学生が参加していました。中区全域、あるいは横浜市全域でそういう体制を取ってほしいと思います。子どもたちの目線で気づいたこともあると思いますので、是非、学校ともしっかりと連携していただければと思います。

様々な事業を推し進めていただいているし、新規の事業も色々あるわけですが、動画をもう少し使ったほうがいいのかなと思っています。ただ、せっかく良いものをつくっても、なかなか区民の皆様に見ていただけない、あるいは、お届けできていないという部分があるかもしれません。例えば、27ページの外国人向け両親教室が、7月末時点で58回再生というのは多いのか少ないのか。子育てをしている年代の方々が何を求めているのかということを、担当職員だけでなく、オール中区で、考えていただければいいと思っていますが、その点いかがでしょうか。

稻葉こども家庭支援課長：昨年度まで子育て支援拠点で集団での教室を行っていたのですが、病院や母子手帳の交付時に、中国人の方に「参加してくださいね」とお願いをしても、なかなか参加される方が少ないと感じました。色々とお聞きしたところ、コミュニティがあるので集団での教室は必要ではないということでしたが、教室の内容は動画にするとすごく参考になるというお話がありましたので、今回、動画を作成させていただきました。5月から7月で再生数が58回というのが多いのかどうかというのは微妙なところではあるのですが、実際に母子手帳を取りにこられた中国人の方等には2次元コードで見てくださいとお願いをしています。是非多くの方に見ていただきたいので、外国人の方にきちんと届くようにしていきたいと思っております。

伊波議員：区政推進課がまとめてくださっている、なかくつこ自由研究大作戦ですが、毎年グレードアップしていて、子どもたちや保護者の皆さんの中の選択肢がすごく広がっているように見えるのですが、今年も抽選に

なったりしたのでしょうか。

宮里区政推進課長：今年度につきましても、やはり抽選となる講座は発生しております。昨年度に人気のあった講座については拡大をとの御指摘をいただいて改善をしたのですが、やはり人気がある講座は、抽選が発生している状況があります。

伊波議員：抽選となった講座を2回にしていただいたり、色々と区政推進課の中で調整していただいている。子どもたちや保護者にとっても選択肢が増えることはものすごく良いことだと思いますので、よろしくお願ひします。

色々と横浜市の方から、全て「局の事業でも受付は区役所で」といった形になってきていると思います。様々な区民の皆様がいらっしゃると思いますので、窓口業務の皆様を筆頭に、こういった問題が上がったようだとか、そうした課題等は、区長にもしっかりと上げていただきたいですし、私たちも中区の議員でありますので、しっかりやっていきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

福島議員：重点事業につきましては理解をいたしました。ありがとうございました。昨年、5階の床のサインを変えたということで、先ほど確認させていただきましたけれども、5階はこんなに奥まで広いんだということがよく分かりました。確かに、以前伺ったときは、奥に行くのが何となく不安な感じがいたしましたけれども、今は奥まで赤い線が引かれたので、安心して伺えるなど、改裝していただけてよかったです。

重点事業の中で、これはもう皆さんにとっては釈迦に説法かもしれません、地域の防犯力向上緊急対策事業というのをつくっていただきまして、上限20万で「各自治会町内会から申請」ということで予算を組んでいただいたのですが、あまり実績が上がってないというのを私どもから提案をしたところです。なかなか活用が進まないと残念に思っております。地元の町内会でも少しお話を聞いてみたのですが、なかなかピンとこないようでした。締切りを1か月延ばしていただいたようですが、機会があるごとに「補助金があるので使ってください」とPRを重ねてしていただけだと有り難いと思いました。なかなか自治会町内会では思いつかないところがあるのかと思いますので、是非皆様にも改めてお願ひをしたいなと思いました。

重点事業ではないのですが、今年度、資料30ページの「まちづくり推

進事業」で、「よこはま中区の歴史を碑もとく絵地図活用事業」がありますけども、前もこの話題を申し上げたかもしないのですが、このマップを作るほど中区にはたくさんの碑があります。例えば、桜木町駅の鉄道記念の碑ですが、鉄で造られているのだけれども、ほとんどボロボロになっていて、転倒することはないと思うのですが、せっかく意義深い碑なのですが、傷みがかなり激しいです。また、山下町に「洋裁発祥の地」のかわいい小さなお人形さんのような碑があるのですが、設置した団体がもういらっしゃらないのではないかと、大変心配をしているということが、数年前、マンションが建て替わったときにありました。せっかく歴史を伝える碑を大事にしている中区なので、碑は設置者が管理をするのかなと思っておりますし何か支援をできるのかどうかは分かりませんが、可能な限り設置の団体さんとの連携を、改めてチェックをしていただいたらどうかと思ったのですが、この辺の状況はどのような感じでしょうか。

宮里区政推進課長：こちらで御紹介しています碑につきましては、基本的には設置者が管理をしておりまして、私どもが日頃から連絡を取り合っている団体ばかりではないというのが実情でございます。改めてその辺りは整理したいと思います。

福島議員：区制 100 年に関連してお手紙か何かを出す等して、もう 1 回改めて、何かイベントをやるのも面白いかもしないなど、思いつきのレベルですが、お伝えさせていただきます。

都市間交流事業についてですが、6 年度予算では 70 万円あったのですが、お金をあまり使わなかったのか、決算が 40 万円程でした。区長にもこの間、春の少年野球のときの御相談もしたりして、様々な経緯がありますが、34 ページで「飯能市、嬬恋村、米沢市、釜石市、韓国の仁川広域市中区、宜野湾市」とありますが、先方様はやはり横浜市の中区ということで、非常に期待するものが大きいのだなと実感するところです。横浜市としては、制度や色々な狭間でやりづらい点があろうかと思うので、今年の予算はそうした経緯があって、67 万になってしまったのかなと思ったものですから、来年はどうしますかというところを、早々なのですが、お願いをしたほうがいいかなと思ったもので発言しました。できることとできないことと、それから公平性等があると思うので、検討していただきかなくてはいけない部分はあると思うのですが、都市間交流事業の今後がどういうふうに考えられているのか伺いたいと思

ます。

永井区長：それぞれの都市の始まった経緯が色々と違うと思いますが、これまで続いている交流は本当にどれも重要だと思っております。実績等に基づいた予算ということで、今年度は少し減額になっておりますが、きちんと都市間交流を続けていきたいと思っておりますので、御安心いただければと思います。

福島議員：中区でどこまで何ができるか分からぬのですが、来年4月から自転車の青切符が始まるのですが、相変わらず自転車の運転がなかなか徹底できなくて、逆走はする、一時停止はしない、歩道を走るというところがまだまだあって、これをどうするのかなというのがあります。来年になってから急に警察がしっかり取り締りをするのかといったら、実質そんなにできないのではないかというところもあり、警察にあまり期待してもいけないのかなとも思うのですが、かといって重大な事故が起きてしまっているので、これはもう1回、ちゃんと勉強する、ルールを徹底する、というのをしなければいけないと非常に思います。そのところも加味した来年の取組に期待したいと思います。

阿部地域推進課長：小学生向けや、中学生向けの交通安全教室を開催しております、例えばスケアードストレートという手法で、スタントマンの方に協力いただいて、実際に車が走っているところに自転車で衝突したらどういう事故になってしまうかを、実演しております。こうした教室も行っていますので、その中で道路交通法改正に伴います自転車のルールについて、基本的なルールも含めて、ホットな話題として伝えてまいりたいと考えております。交通安全教室の中でこうしたメニューを取り入れることも可能かなと考えておりますので、参考にさせていただきます。

福島議員：私自身ももう1回ルールを見直さなければいけないと思うのですが、特に親子で子どもさんを乗せている方が非常に気になる時がありまして、「危ないな」と思うことがあります。それから、大人についてももちろん、ルールをきちんと守らなくてはいけないということの徹底をもう一度お願いしたいと思っております。

あとは今年、こども青少年・教育委員会になったものでやら意識しているのですが、中区の図書館の取組について少々伺いたいと思います。読書運動など、また秋に行うと思うのですが、今、中図書館として、何か重点的に推進していることや、あるいは、区民の方から要望されて

いることはあるのでしょうか。利用者数を中図書館だけで見ると、中区の場合は中央図書館もあって他の区とまたちょっと違うのかなと思うのですが、その辺のところ、もし何かございましたら、教えてください。

永井区長：私も先日、図書館に行き館長と話をしました。区民の方々からは特に何か要望というところはないようですが、図書館の利用率を高めるということで、地区センターと一緒にタイミングでイベントを行ったりですとか、子どもたち向けに読み聞かせを行ったり、図書館のことを周知するイベントにもかなり力を入れているというところです。

福島議員：数字だけで利用率と貸出数を見ると、中図書館だけで見ると非常に少ない傾向にあるので、もっと読書運動が盛んになるといいなとも思っていますが、中央図書館もありますので、多分、中央図書館に取られるのかなと思っています。

永井区長：間接的にはそうだと思います。あともう1点、中図書館で力を入れているのが、外国籍につながる方が非常に多いということで、外国語の書籍については中区が中心的に多くのものを揃えているという話がありました。

福島議員：それは特徴的でいいことですね。図書館の運営に外国籍の方に入っていただくとか、そういうことをするとまた何か違ったものが見えてくることがあるかもしれないですね。

それから最後に防災訓練についてですけれども、はまっこトイレの水の取り方をこれから変えていくかもしれないということで、この間、立野小学校に行かせていただいたのですが、そこで屋上プールからホースを引っ張って水を下ろすのではなくて、取水口から取れるところは取りましょうという方法にすると伺ったのですが、この取組は今後、どういうふうに展開していきそうでしょうか。

大木総務課長：今まででは屋上にプールがありますと、重いポンプを下の倉庫から上に持つて上がるのが大変だったと伺っております。ですので、負担を少なくして、プールから地上へ至る消防用の配管を活用して、ポンプを用いずトイレへ水を流すという新たな方法を地域の皆さんができるようにと思っております。実際に拠点の皆様とお話をさせていただいて、屋上にプールがある拠点につきましては、御相談をさせていただきながら、「よろしかったらどうですか」ということで推奨させていただいている状況でございます。

福島議員：私が拝見したところがそうだったのだと思いますが、やり方を

変えるという趣旨が伝わってなくて、ちょっと混乱の声が出てしまったりしていました。ご説明が今一つだったかなという感じもしたものですから、主催者の方たちも含め、もう少し訓練の趣旨というか、変更点が伝わるようにしていただいたほうがよかったと思った次第です。

大木総務課長：承知しました。

松本議員：13ページの「自治会町内会活動支援事業」の「学生連携事業」で、関東学院大学の学生と自治会町内会長との意見交換があったということなのですが、学生の皆さんからどんな御意見があったのかお伺いしたいです。

阿部地域振興課長：3年ほど、関東学院大学の皆様と意見交換をしておりまして、地域のイベントに実際に参加をしていただく中で、子育て世帯が自治会と住民をつなぐ上では一つのキーになるということで、子育て世代にフォーカスをしたイベントであったり、子どもさんを連れて楽しめるような企画を行っていくところが活動の促進につながるのではないかというお話を頂戴しております。現在行っております埋地地区におきましても、そういった視点で夏祭りの企画などを組み立てて実践をしております。

松本議員：学生さんから自治会町内会の活性化に向けたご意見をいただける良い機会だと思うのですが、聞きっ放しでは意味がないので、実際にイベントを行うときに関東学院大学の学生さんにも参加をしていただいて、ブースをつくってもらうとか、そういったことで若い人が入っていくと地域の催しも活気が出てきて、地域の方々と学生さんとのつながりにもなってくるのかなと思います。防災訓練も、できれば学生さんにも入ってもらえば、昼間学校に来ていれば、いざというときに担い手の1人になっていただけるのかなという気もするので、そういった防災面なども含めた中で、関東学院大学の学生さんとの意見交換をもっともっと幅広く発展させていただきたいなと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

小学校でのスクールゾーン対策は今でも各学校でやっているのでしょうか。

阿部地域振興課長：スクールゾーン対策でございますが、現在も各校区におきましてスクールゾーン対策協議会として、要望を確認したり見守り活動等を行っています。

松本議員：通学路の安全面で、「こんな箇所が課題がある」というのは色々

指摘が出てきて、できることできないことが多いと思うのですが、その出た意見に対して、改善状況はどうなっているのでしょうか。

阿部地域振興課長：地域の要望もそうですし、広聴でも個別に市民の皆様から、「ちょっとここが危ないんじゃないかな」という声は頂いております。予算の上限もあるので、全てのところで即座に対応できるかというと難しい部分もあるのですが、例えば路上にあるお子さんが飛び出ないような注意を促すパンダマーク、御覧になられたことあると思いますが、ああいったものを地域振興課で貼り替えるといった、すぐ対応ができるものは順次行っているところでございます。いただいた要望に迅速にかつ丁寧に対応してまいりたいと考えております。

松本議員：中区は通学路も車が頻繁に走ったり、危ない箇所が多いと思うので、子どもたちの安全を守るためにできることは、率先してやっていかなくてはいけないと思います。「スクールゾーン対策協議会でこういう提案が出ました。それに対してこういう部分を改善しました」というのを、例えば自治会町内会へ見せていくことで、「こうした改善をしているので、是非地域の方々もパトロールといった面で子どもの安全をカバーしてください」というお願いもできるかと思うので、是非そういったものを、学校と行政だけの情報にしないで、それを地域に見せていくということも考えていいいただきたいと思っていますのでどうぞお願ひします。

それとあと、先ほど伊波先生からも防災訓練の話があったのですが、僕も防災訓練を各地域で見ると、大体参加する方が固定しています。地域によっては色々と分担分けをして、担当を一手に担って一生懸命やっている係の方がいらっしゃる反面、ただ見ているだけという方もいて、千差万別だったのだけれども、ほとんどが毎年同じ方のようです。防災訓練に参加していない方々に、どうやって防災訓練に参加をしていいただくのかというと、例えば「拠点でこんな訓練をしましたよ。それでこんな意見が出て、今、災害があったときに拠点ではこういう体制を組むんですよ。それは地域の皆様の応援がないと、実現できないんですよ」ということを、地域の方々に伝えていかないといけないと思うのです。ただ「防災訓練がありますよ」だけではなくて、防災訓練の重要性だとか、「実際にこういうことをやっているんだけど、まだまだ完全ではないんだ」ということを皆さんに知っていただくことも大切だと思うのですが、そのような働きかけはできないですかね。

大木総務課長：確かに防災訓練は参加者が固定している状況もあると認識しています。実際に行ったことや重要性を、きちんと伝えていく。例えば自治会町内会でも、一部の方は防災訓練にも出席されているのですが、まだ参加されていない方も多くいらっしゃるので、あえてそこで時間をいただきてきちんと報告していただくとか。地域防災拠点の総会もございますので、そこで良い事例を共有し合って持ち帰っていただけとか、そうしたことを丁寧に行っていきたいと思います。それから、担い手の育成です。子どもたちが参加すると、保護者など多くの方に広がっていきますので、地域防災拠点の訓練への子どもたちの参加も、学長にお願いしているところでございます。

松本議員：無関心な方々に限って、実際に災害があったときに拠点に来て「何がない」「あれがない」と大騒ぎのきっかけになってしまふので、やはりそうした方々にも「拠点ってどういうところなの」ということを知つてもらう努力もしなければいけないと思うので、これからよろしくお願いしたいと思います。

先ほど福島先生からもあった、プールから簡易トイレに流す水を持つてくるというお話の中で、各拠点で一生懸命やっていて、簡素化できて非常に素晴らしい形だというふうに思います。ただ、今回が初めてということで、この前も港中学校で、バルブを開いても水が出なかつたということで、色々と四苦八苦していたら、結局、上のプールのバルブが開いていなかつたということでした。これは拠点だけではなくて、実際に周辺で火事が起きたときには、消防署の皆さんも、そこから取水をして放水を行うということだけど、プールのバルブが開いていなければ出でこないわけだから、バルブは学校の管理になると思うのだけど、常に開いておくということが大切だと思うので、屋上にプールがある学校で、火災の放水のときに使う水源として利用する場合には、しっかりプールのバルブは常時開いておくということを各学校に通達することが大切だと思うのですが、その辺はどうなつているのでしょうか。

田邊中消防署長：消防用の水利になっているので、使おうと思ったときに使えなかつたということにならないよう、学校側とも連携して、私たちも消防の水利は点検しなければいけないという形になっておりますので、それは実施していきたいと思います。

松本議員：学校側がこういうことを知らないと思うので、学校側へも注意喚起をお願いできればと思っています。

防犯カメラですが、市民局の常任委員会のときにも話をしたのですが、犯罪に対して防犯カメラがすごく効果を発揮しているということです。伊勢佐木町は年がら年中、各町内に「防犯カメラを見せてください」ということで警察が来るのですが、その場合、全部立ち会わなければいけないのです。データだけ持って行ってくれれば良いのだけど、そういう仕組みではなくて、町内の方が警察の方と一緒にずっと見てなくてはいけない。町内会側でも、防犯カメラの管理について色々と見直しをしてほしいという要望が出ています。これは区では単独でできないと思いますが、「設置してください」だけでなく、管理で「こんな支障が出てるんだよ」ということは各町内会に確認をして、改善ができるものは是非改善していただきたいと思いますが、町内会では問題になってないでしょうか。

阿部地域振興課長：管理をどこがやるかとなると、現状は町内会が行っている状況だと思いますので、その負担についてどう対応するのかに関しては今後、オール横浜で考えていくことになってくるかと考えています。

松本議員：ニュースだと、警察が設置をして、県警本部の中で24時間それを管理できるような仕組みを、警察でつくり始めているという話もあり、そうすると警察はいつでも見ることができるわけだから、本当はそれが一番手っ取り早い。管理というものをもう少し融通がきくような形でできればなど、地域の中でそのような課題が出てきているので、御検討いただければなと思います。

福島議員：ちらっと伺った中では、今までそうだったけれども、最近はデータに取って持っていくという事例があったと聞いたので、改善したのかなと思ったのが、相変わらずなのでしょうか。

松本議員：まだまだ全部ではないのです。

福島議員：署によって違ったりするのかもしれないですね。

松本議員：機種が前に付けたのと今付けているのとがあるので、データ保存が1か月を過ぎると自動で消されていくものと、ディスクを入れて保存するものがあるようです。ディスクの場合に、誰が新しいのに換えるのか、そのディスクを誰が保管するのかとか。

福島議員：1か月ぐらいで上書きされていくシステムで、その一定期間の分をコピーして、山手署の事例では持って行ったと、この間は聞きましたが、全てがそうでないのですね。

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>松本議員：そのような事例があるので、御検討いただければと思っております。</p> <p>阿部地域振興課長：不勉強なところがございまして、改めて現状をよく確認させていただいた上で、私どものほうで何ができるかというのを整理させていただければと思います。</p> <p>福島議員：そうした対応が嫌で設置するのは遠慮したいという方がけっこう多いのですよね。</p> <p>松本議員：犯罪捜査で大きな効果を出しているので、うまく活用できるように市でも検討いただければと思っております。</p> |
| 備 考 |  |